

# JSMA規格：正誤票

## JSMA SD013:2009 ばね用鋼線の硬さ測定方法

区分 (まえがき、本体、 解説、など)	位置 (箇条、図、表、式、 などの番号・記号)	誤	正
本体 2頁	<b>表1</b> “硬さ記号”列の一番下の欄	HRN15N HRN30N HRN45N	HR15N HR30N HR45N
本体 4頁	5.2.1 d) 1行目	…次に示す計算式より求めるとできる。	…式(1)より求める。
本体 6頁	5.4 3行目	$F$ ピッカース硬さは、…	ピッカース硬さは、…
本体 8頁	<b>表6</b> “項目”の行 “ロックウェル硬さ”と“ロックウェル スーパーフィシャル硬さ”との境 界線の位置	“15 N スケール”の中央	“A スケール”と“15 N スケール”と の境界(別添1参照)
本体 8頁	<b>表6</b> “圧子”の行	円錐角	円すい角(別添1参照)
本体 8頁	<b>表6</b> “初試験力 $F_0$ ”の行 “98.07 N”と“29.42 N”との境界 線の位置	“15 N スケール”の中央	“A スケール”と“15 N スケール”と の境界(別添1参照)
本体 8頁	<b>表6</b> “試験力増加時間”の行 “2 s ~ 3 s”と“1 s ~ 1.5 s”との境 界線の位置	“15 N スケール”の中央	“A スケール”と“15 N スケール”と の境界(別添1参照)
本体 8頁	<b>表6</b> “硬さの定義式”の行 “ $100-(h/0.002)^*$ ”と“ $100-(h/0.001)^*$ ”との境界線の位置	“15 N スケール”の中央	“A スケール”と“15 N スケール”と の境界(別添1参照)
附属書A 10頁	<b>表A.2</b> “測定部の曲率半径”の“1.6”列 の上から4行目	(5) <sup>1)</sup>	(5) <sup>1)</sup>
解説 12頁	3. 6行目	…JIS Z 4801…	…JIS G 4801…

(次頁に続く)

JSMA規格：正誤票(続き)

JSMA SD013:2009 ばね用鋼線の硬さ測定方法

別添 1

誤

表6 ロックウェル硬さ及びロックウェルスーパーフィシャル硬さ

項目	ロックウェル硬さ			ロックウェルスーパーフィシャル硬さ	
	Cスケール	Aスケール	15 Nスケール	30 Nスケール	45 Nスケール
硬さ記号	HRC	HRA	HR15N	HR30N	HR45N
圧子	円錐角120°，先端の曲率半径0.2 mmのダイヤモンド				
初試験力 $F_0$	98.07 N			29.42 N	
追加試験力 $F_1$	1373 N	490.3 N	117.7 N	264.8 N	411.9 N
全試験力 $F$	1471 N	588.4 N	147.1 N	294.2 N	441.3 N
試験力増加時間	2 s ~ 3 s			1 s ~ 1.5 s	
試験力保持時間	2 s ~ 6 s				
試験温度	10 ~ 35 ( 温度管理時 23 ± 5 )				
硬さの定義式	100-(h/0.002)*			100-(h/0.001)*	
適用する範囲	10 ~ 70 HRC	20 ~ 95 HRA	70 ~ 94 HR15N	42 ~ 86 HR30N	20 ~ 77 HR45N

正

表6 ロックウェル硬さ及びロックウェルスーパーフィシャル硬さ

項目	ロックウェル硬さ			ロックウェルスーパーフィシャル硬さ	
	Cスケール	Aスケール	15 Nスケール	30 Nスケール	45 Nスケール
硬さ記号	HRC	HRA	HR15N	HR30N	HR45N
圧子	円すい角 120°，先端の曲率半径0.2 mmのダイヤモンド				
初試験力 $F_0$	98.07 N			29.42 N	
追加試験力 $F_1$	1373 N	490.3 N	117.7 N	264.8 N	411.9 N
全試験力 $F$	1471 N	588.4 N	147.1 N	294.2 N	441.3 N
試験力増加時間	2 s ~ 3 s			1 s ~ 1.5 s	
試験力保持時間	2 s ~ 6 s				
試験温度	10 ~ 35 ( 温度管理時 23 ± 5 )				
硬さの定義式	100-(h/0.002)*			100-(h/0.001)*	
適用する範囲	10 ~ 70 HRC	20 ~ 95 HRA	70 ~ 94 HR15N	42 ~ 86 HR30N	20 ~ 77 HR45N

作成:2011年9月15日